

○小山田耕作・福元伸一
(鹿児島農総セ大隅)

【目的】

サツマイモ新品種「べにはるか」は、収穫時にいもの基部や尾部の切り口、表皮の傷等から発生するヤラピン（ヤニ）の量が多く、いもの外観品質の低下が問題となっている。そこで、「べにはるか」の収穫時のヤラピン発生状況の調査およびヤラピン発生軽減による外観品質向上法を検討する。

【材料および方法】

試験1 品種とヤラピン発生量

「べにはるか」, 「高系14号 (ベニサツマ)」を供試し, 2007年6月1日に定植, 11月2日に収穫した。調査株は, 収穫日に地上部を除去し, しょ梗をつけたままの状態掘り上げた。ヤラピンの測定は, いもの基部の径が8mmとなる部分で切断し, 切り口からしみ出るヤラピンを切断1分後にガーゼに吸収させ, ガーゼ上の濡れの拡がりの面積を葉面積解析ソフトで測定し, これをヤラピン量とした。

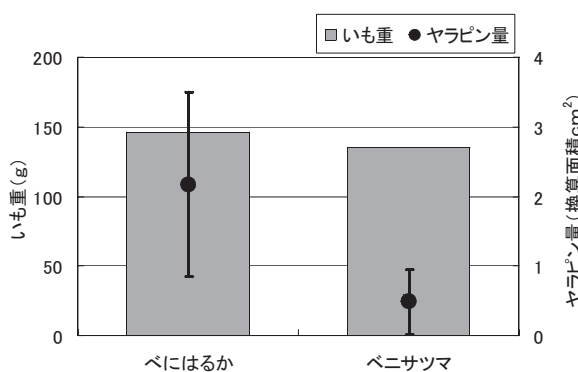
試験2 地上部除去時期とヤラピン発生量

「べにはるか」を供試し, 2008年4月25日に定植, 収穫は, 9月4日と10月2日に行った。地上部除去は, 収穫の当日, 3日前, 7日前に行った。ヤラピン量の測定は試験1に準じた。

【結果および考察】

試験1 品種とヤラピン発生量

「べにはるか」のヤラピン発生量が「ベニサツマ」に比べて多かった(第1図)。いもの重量とヤラピン量の関係は, 「べにはるか」は正の相関が認められた。一方, 「ベニサツマ」については認められなかった(相関図略)。

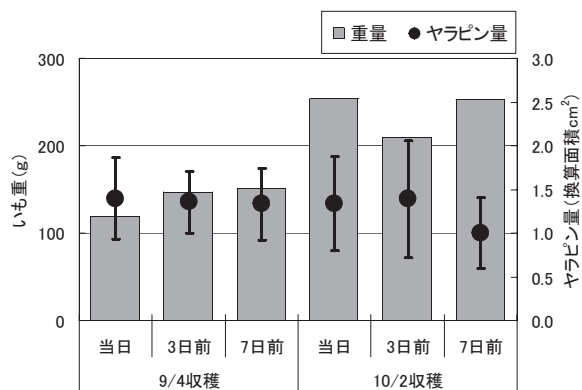


第1図 品種別いも重量とヤラピン量

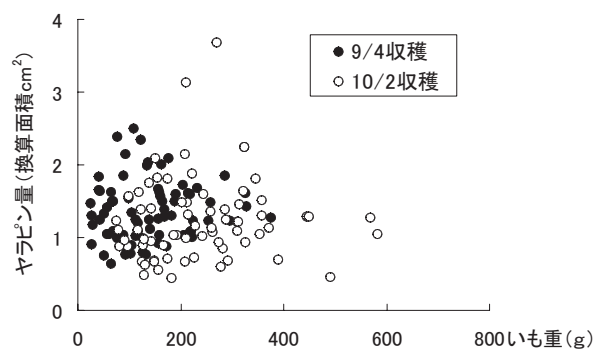
試験2 地上部除去時期とヤラピン発生量

ヤラピン発生量は, いずれの地上部除去の時期においても差はなかった。また, 収穫時期の違いにおいても差はなかった(第2図)。これらのことから, 収穫前の地上部除去時期がヤラピン発生量に及ぼす影響は小さく, 収穫前の地上部除去によって, ヤラピンの発生軽減を図る可能性は低いと考えられる。

いも重量とヤラピン発生量との関連については, 試験1において, 11月2日収穫の「べにはるか」では, 相関が認められた。試験2では, いも重の軽かった9月4日収穫といも重の重かった10月2日収穫との比較において, ヤラピン発生量に差を認めなかった(第3図)。このように, ヤラピン発生量は収穫時期によって, 地下部との関連が異なる傾向にあることから, 今後, 地上部の生育量(生育期間)とヤラピン発生量の関連を検討する必要がある。



第2図 収穫時期別及び地上部除去時期といも重, ヤラピン量



第3図 収穫時期別のいも重量とヤラピン量の関係